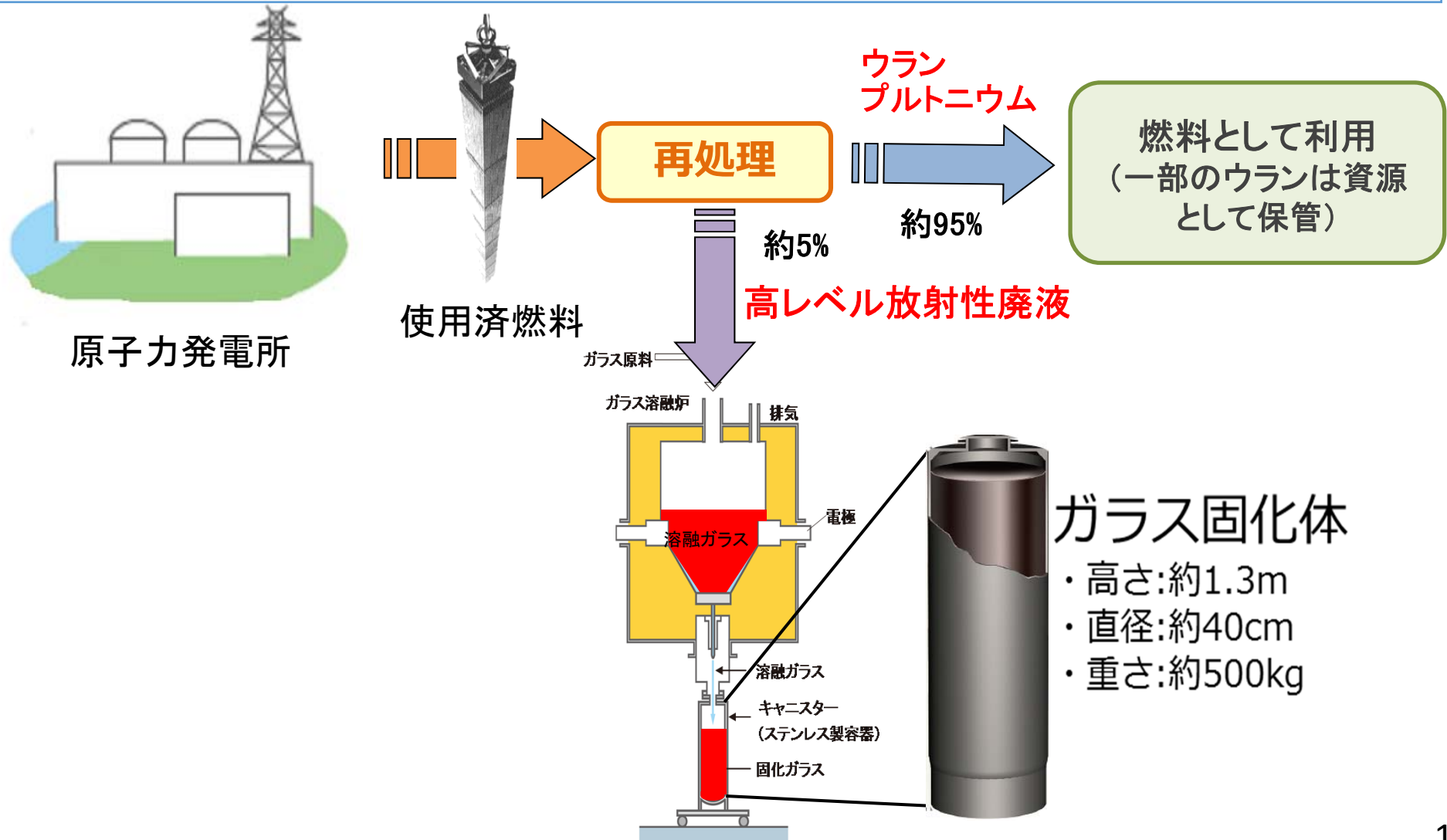


# 高レベル放射性廃棄物

- 高レベル放射性廃棄物は、使用済燃料を再処理して資源として利用できる ウラン やプルトニウムを取り出す過程で残る高レベル放射性廃液をガラス固化したガラス固化体です。(使用済燃料を再処理せずに直接処分する国では、使用済燃料そのものが高レベル放射性廃棄物となります。)



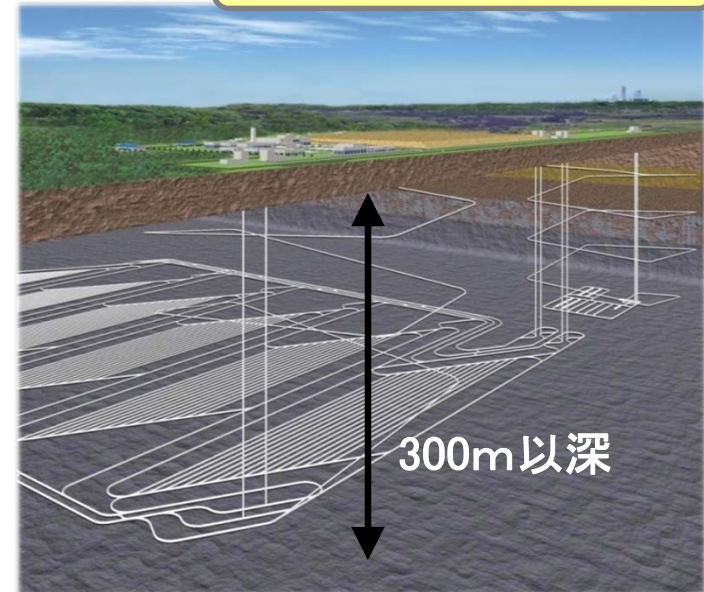
# 地層処分場の規模

- ガラス固化体を4万本以上埋設できる施設を1ヶ所建設することを計画しています。
- 処分施設の規模は、地上施設が1～2km<sup>2</sup>程度、地下300mより深いところに設けられる地下施設が6～10km<sup>2</sup>程度、坑道の総延長は200km程度と見込んでいます。

地上施設: 1～2 km<sup>2</sup>程度

【高レベル放射性廃棄物処分施設(イメージ)】

地下施設: 6～10 km<sup>2</sup>程度



# 基本方針の改定(2015年5月閣議決定)のポイントから抜粋

## (1) 現世代の責任と将来世代の選択可能性

- 廃棄物を排出してきた現世代の責任として将来世代に負担を先送りしないよう、地層処分に向けた対策を確実に進める。
- 基本的に可逆性・回収可能性を担保し、将来世代が最良の処分方法を選択可能にする。幅広い選択肢を確保するため代替オプションを含めた技術開発等を進める。

## (2) 全国的な国民理解、地域理解の醸成

- 最終処分事業の実現に貢献する地域に対する敬意や感謝の念や社会としての利益還元の必要性が広く国民に共有されることが重要。
- 国から全国の地方自治体に対する情報提供を緊密に行い、丁寧な対話を重ねる。

## (3) 国が前面に立った取組

- 国が科学的により適性が高いと考えられる地域を提示するとともに、理解活動の状況等を踏まえ、調査等への理解と協力について、関係地方自治体に申入れを行う。

## (4) 事業に貢献する地域に対する支援

- 地域の主体的な合意形成に向け、多様な住民が参画する「対話の場」の設置及び活動を支援する。
- 地域の持続的発展に資する総合的な支援措置を検討し講じていく。

## ■ 情報発信

- NUMOウェブサイトは、様々な興味を有する多くの訪問者に対応できる柔軟な知識環境
- 関連雑誌等への記事やインタビューによる投稿、関係者への出張説明、対話会合への参加、地下研訪問の支援 等
- 全国を巡回する展示車「ジオ・ミライ号」

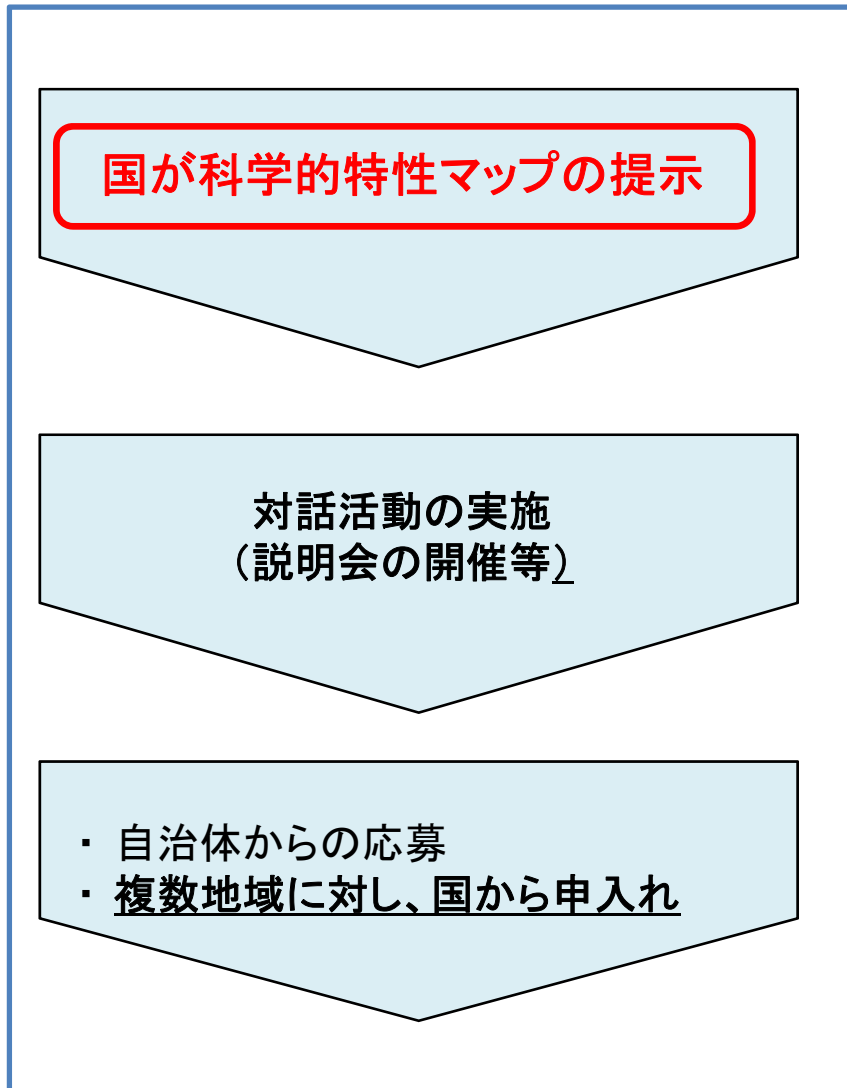
## ■ 全国で意見交換会等を開催

- 国、NUMOや専門家による説明と少人数でテーブルを囲んでの対話

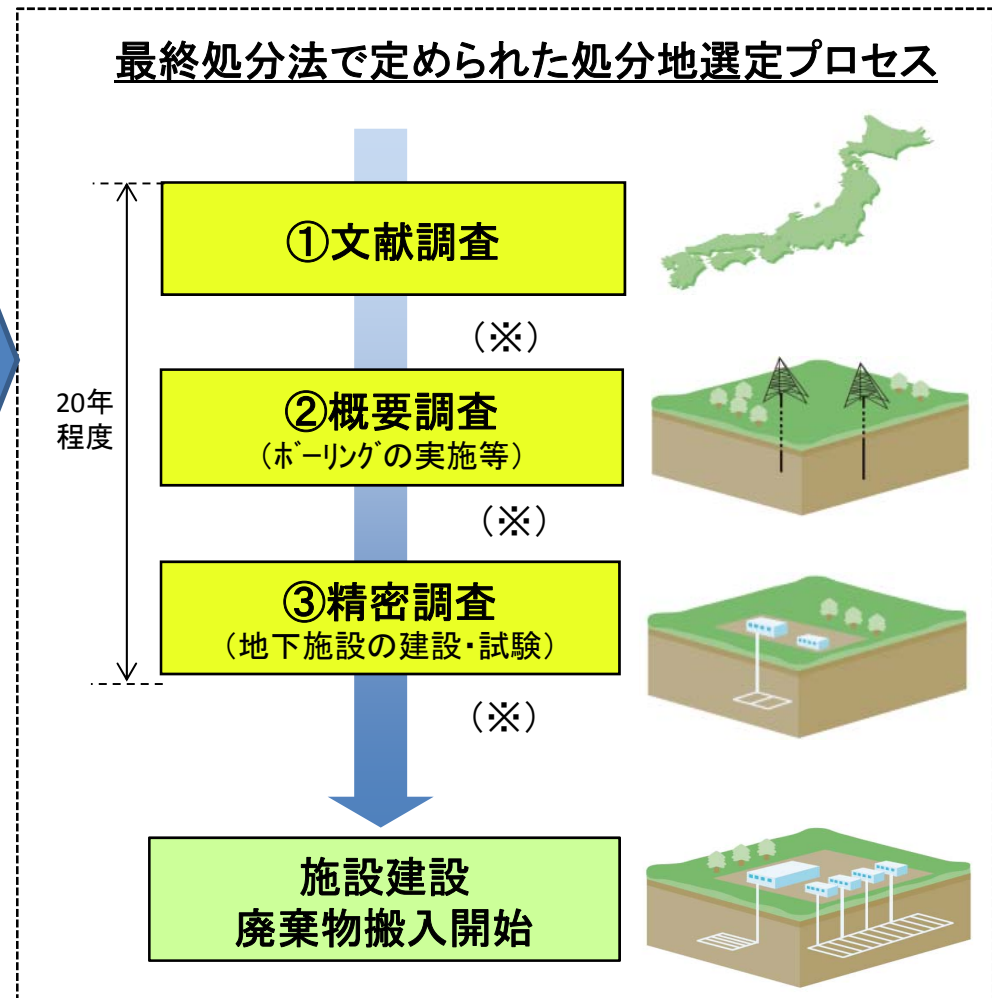


# 新たなプロセスの追加

- 新たな基本方針の下で、科学的特性マップを提示する等、国が前面に立って取組を進める新たなプロセスが追加されました。



※各調査段階では地元自治体の意見を聴き、これを十分に尊重する(反対の場合には次の段階へ進まない)。



## 科学的特性マップ提示後のNUMOの活動

- 全国シンポジウムなどを継続実施
  - 自分の事として関心を持っていただく。
  - 調査の受け入れ自治体に対して尊敬や敬意の気持ちを持っていただけるように
- 好ましい特性が確認できると考えられる自治体において
  - 事業の姿やその経済・社会・環境影響、事業推進に際して地域社会と共生していく考え方について丁寧な「情報提供」
  - 地域のいろいろな団体による「主体的な学習活動の助成」
  - 学習活動の「地域全体への広がり」



自治体の多くの皆様が地域の将来ビジョン地層処分事業を通じた地域の持続的発展や等について主体的に考える状況